

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を实践する着実・前向き・具体的な活動です。

## 「新しい時代」に適應する

右掲は無料イラストにあった午年のイラストです。朝日を浴びて駆け出しそうな構図になっています。弊社は昨年7月に創業30年を契機に事業承継して新しい経営が始まっています。お陰様で既存のお客様が安定した経営をされており、その安定に弊社も具体的に参加して貢献させて頂いています。新社長は「AIの代理店」になったのを機にして講習を受け、そのノウハウを業務に活かしています。例えば、大手企業から提供されるデータを加工する業務をAIを駆使して一部ですが自動化して生産性を上げています。中には、思いもかけない方法を発見することもあるそうです。



さて、現実的に見ると世の中は「新しい時代」への過渡期にきていると言えます。例えば、先進国は若手人口が減少する「先細り」の構図の中で、技術を中心に世界をリードして来ましたが、中国など世界の工場だった国が経験を積んで技術の面でも先進国に並ぶ水準になり、世界の構図が変わりつつあるのです。その変わりつつ構図の中で重要なことは「格差」が拡大している事です。例えば、中国でも所得格差が大きくなり、しかも若年層が「一人っ子政策」の影響を受けて「先細り」しているので、日本でも見られるように1次産業や2次産業の現場人口が減る上に、現場を海外にシフトする構図になっており、中間層と呼ばれる層が薄くなり、高所得者と低所得者の2極化になるのです。

つまり、「新しい時代」に向かっている中で、企業が如何にして成長を続けるかが課題です。その為には「人」と「商品」が必要になります。勿論、「商品」は売れてこそ価値があるので、お客様が重要になりますが、そのお客様もどんどん変化して行くので適應することが難しくなります。さらに、「人」の課題があります。最近の求人市場は初任給が高額化しており、賃金の面でも採用が難しくなっています。この「賃金」の課題を克服して採用できたとしても高齢化の中に迎えるので「新しい血」として期待したいのですが、多くの場合、「捨て育ち」状態なので

## 「1ミリ革命」で「出来ること」から着手

周囲との兼ね合いで若いパワーを発揮できないで霞んでしまいます。

一方、大手企業は自社のリスクを軽くしたいので協力企業に高い品質を要求するようになっていきます。時代はITがベースになりつつあるので、協力会社にも高いレベルの企業品質を求めて来ます。彼らはBCP対策として先端の管理体制を構築して運用する能力を持っていますが、協力会社は千差万別な状況であり、「管理」よりも「現場」という企業も多いので要求されるIT要員が不足している状況があります。従って、例えば、ISOを取得しても現実のPDCAが回されるずに定期的に取得維持の為の作業を行なっている状況です。

つまり、「新しい時代」のあるべき姿とのギャップを洗い出して、力相応に一步步対策を打って経営の質的向上を図る必要があります。例えば、弊社のような小さな会社では各自のPCがLANで繋がっていても、各自の業務が異なるのでデータは各自のPCに保管されている状況です。この分散した状況を解決する為にファイルを共有する装置を設定して、各自が必要に応じてコピーしているのが現実です。これを文書化して自動的にコピーするように対策を講じることで一歩前進するのです。

NHKの番組で「1ミリ革命」がありましたが、大きく変えるには資金も大変ですし「人」も追従できないので、まず、できる事から始めようという事でした。「人」は基本的には慣れたことを変えたくない「保守」的な性格を持っていますが、少しでも「変化」を始めれば呼応する人が出て来るのです。「戦略的変革」と構えると大袈裟になりますが、「なりたい姿」を描き、現実とのギャップを「出来ること」から着手する事がポイントです。「品質は工程で作り込め」が改善の合言葉になっていますが、どんな品質も現場で人が作り込むことが重要であり、「管理」は「見える化」で自動的に行うことがポイントであり、「品質会議」は確認の為の開催になるようにする事が大切です。

### ワンポイント・アドバイス

「新しい時代」を想定して、現実とのギャップを知る事から始まります。ギャップが大きいと「雲の上」状態になりますが、それでも糸口を見つけて一歩ずつ改善する事が大切です。個人的な話ですが「人生百年時代」に向けて現状満76才からの24年間を展望してみました。まず「健康」ですが、有難いことに良いお医者さんにかかっていて、課題を一つずつ克服しています。残るはモチベーションです。出来る事で解決したいと思っています。

